

第 6 回 県西地域活性化推進協議会 結果概要

(H28.3.25 10:00～11:15 於：神奈川県小田原合同庁舎 2階会議室)

開会（県西地域活性化担当部長）

知事あいさつ

黒岩知事：おはようございます。本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。このプロジェクトもスタートから2年が経ちました。未病という言葉も段々と浸透してきたのではないかなと感じています。

2年目となる今年度は、「未病いやしの里の駅」、「未病いやしの里センター」、「未病を治すツーリズム」などの取組みについて、一層の拡充や具体化を図るとともに、新たに「県西未病観光コンシェルジュ」など人材の育成や、PRの充実にも取り組んできたところであります。基本的には「未病」という大きなコンセプトを提示しながら、皆様の自主的なアイデアを募集してやってまいりましたが、どんどんと色々なアイデアが膨らんでいるという感じを覚えており、大変心強く思っています。

また、地域の核となる拠点施設である「未病いやしの里センター」については、今後、決定される基本計画に沿って、事業者であるブルックスさんには、にぎわいを生み出すための商業施設の整備に向けて取り組んでいただき、大井町さんには都市計画の手続き、県は展示施設に配置する展示物の設計を行うなど、それぞれの役割分担のもとで、開設準備の段階に入っていきます。このプロジェクトの取組みは、今、政府としても大きな課題であります「地方創生」の一つのモデルとなるという思いを持って、皆様とともに一つの方向性で頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

平成 27 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況、平成 28 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組み及び未病いやしの里センター（仮称）基本計画案について、政策局長から説明（資料 1 から 3）

県西地域活性化プロジェクト推進交付金事業について、各団体（ ）から説明（資料 4 - 1 から 4 - 6）

（ ）南足柄市副市長、箱根町長、真鶴町長、湯河原町長、小田原箱根商工会議所会頭、富士フィルム(株)統括マネージャー

質疑・意見交換

大井町長：皆様方に一言お願いをさせていただきたいと思います。昨年8月に県の「未病いやしの里センター（仮称）」のプレゼンをさせていただきました結果、9月に、ブルックスホールディングスさんが所有される敷地や建物が「未病いやしの里センター（仮称）」に決まったということでございます。28年度は基本計画を立てる、また、都市計画法上の色々な問題を解決していく、というような作業がありますが、県西地域の活性化の拠点になる施設というようなことでお認めいただきまして、県からも大きな力をお寄せいただいているわけでございますので、2市8町でこの事業をどう展開していくか、ということが言えるわけではないでしょうか。大井町としてもブルックスさんとともに、一生懸命、計画作り、また将来に向けて努力してまいりたいと思います。皆様方のお力をお借りしなければ出来ない事業だと考えておりますので、どうぞ今後とも、県をはじめ、2市8町、関係企業の皆様方、また、諸団体の皆様方のお力添えを賜りますとともに、この場を借りまして、お願いさせていただきます。よろしく願いいたします。

(株)ブルックスホールディングス会長：具体的なものは今月末に取りまとめるといことで、ブルックスホールディングスとコンサルタント会社と大井町とで今進めております。都市計画の課題や用途地域の課題など、解決しないといけないことがあるため、一気に進めるわけにもいきませんが、3月末をもって、県に報告させていただきたいと思っております。

部分的には出来るものから手がけております。今、20~30近くの案件については、従来からやっているものもありますが、進めておりまして、今年度第1期の中では、かなりの部分を進めていくことになると思いますので、遅れた部分もございしますが、これからもよろしくお願い申し上げます。

松田町長：松田町の本山でございます。ご指名いただきましてありがとうございます。気になっていたのがですね、未病を治すツーリズムということで、今後進めていかれるということでもありますが、先日、未病サミットがあったりですとか、国際化というようなことを考えると、我々が色々な取組みの中でステージが着々と進んでいるなと思っております。こんな中、多言語表示だとか未病のグローバル化というものも今後取り組んでいくことになるのかと思っておりますが、今後、その辺の取組みについてどのように進めていこうというお考えがあれば、教えていただきたいと思います。

黒岩知事：この点については、私の方でお話をしたいと思います。未病サミットを去年の10月に開催しましたが、あの国際的なメッセージを出したのが非常に大きかったなと実感しております。実は、あの後、神奈川県で国際会議が次々に行われておりまして、今日も、WHO（世界保健機関）やITU（国際電気通信連合）といった国際機関をはじめとする専門家をお招きして「神奈川県モバイルヘルスセミナー」が行われています。モバイルヘルスとは、まさに未病の状態を色々なセンサーで全部チェックして未病の見える化をしていこうというプロジェクトです。そのことは、神奈川県の思いと同じであることを、昨日、WHOの専門家と確認しました。

それから、先週、アメリカのスタンフォード大学と神奈川県と一緒に「プレジジョン・メディスンと日本における医薬品開発の将来」と題したシンポジウムを開催しました。「プレジジョン・メディスン」とはどういうことかと言いますと、これは実は、アメリカ・オバマ大統領が去年の一般教書演説で述べた新しいアメリカのプロジェクトであります。一方で日本では、あまり報道されておらず、あまり一般的ではありません。「プレジジョン・メディスン」というのは要するに、ヘルスのビッグデータを集めて、それによって個別化医療を目指していこうということなんです。まさに「証」という、人間をタイプ別に分けて、それに合わせた形の医療をやっていこうというものを、アメリカのオバマ大統領が大号令をかけてやっています。これも我々がやっている未病の取組みと全く同じことですね。スタンフォード大学から来られた方も、シンポジウムをやっている中で、神奈川の取組みは凄く面白いなということを書いて下さいました。

今年は未病サミットを開催しませんが、来年は未病サミットをまた箱根で行います。今年は未病サミットの代わりに、去年、横浜でやりましたME-BYO Japanをやります。それに関係する色々なシンポジウム等々もやります。ですから、去年やっていただいたような関連イベントを今年も大いにやっていただきたいと考えています。

この先に考えているのは、2019年ラグビーワールドカップ。これは、大体4万人ぐらいのお客さんが来られて、20日間以上滞在するだろうと考えています。2020年には藤沢でセーリング競技も行われます。こういう中で、外国人観光客のために1000通りのツアーを用意しようと考えています。1000通りのツアーの中に皆さんが取り組んで下さっているようなさまざまな未病に関連するツアーを全部メニュー化していきたいと考えています。つまり、まさに今、町長がおっしゃった通り国際化ということ視野にいれながら、色々なプロジェクトを進めていきたいということです。未病コンセプトは国際的にどんどん受け入れられており、国際観光につなげていきたいと考えていますので、その辺りのことも視野にいれながらプロジェクトを進めていた

だきたいと思う次第でございます。

中井町長：中井町の杉山でございます。27年度については、私どもは、特に町単独ではないのですけれども、2市8町の部分については、引き続き出来ることはやっていこうと思っております。

ただ、先ほどちょっとありましたけれども、町単独のものは県の方から370万円いただきましたので、その辺の部分は、各地域の観点で、各施設で、これについても引き続き取組みを進めさせていただきます。

その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

黒岩知事：ご報告をいただきながら、改めて感じましたけれども、未病というコンセプトの中で色々なバラエティに富んだものがどんどん出てきています。これを俯瞰してみるとまさに「未病の戦略的エリア」というものが具体的に形をもって浮かび上がってきているんだなと強く感じます。これをもとにして活性化につなげていかなければなりません、活性化につなげる時には、工夫が必要なのかもしれないと感じる次第であります。

例えば、KAST（公益財団法人神奈川科学技術アカデミー）で、食の機能に関するすばらしい研究が行われております。それは東京大学の阿部先生がずっと中心になってやってこられた研究ですが、これが大きく成果を挙げております。先日、KASTについて研究成果を聞いてびっくりしました。何かといいますと、私は、長芋を蒸したものを食べたうちの父親が、食欲がでて、元気になったという話をよくしておりますが、こういったものは、口では言っていますが、いわゆるエビデンス、科学的な証拠というものは取れていなかったわけです。漢方的な言い方をすると、伝統的に語り継がれてきたという話だったわけですが、このエビデンスを取ったという話です。どうやって取ったかということ、遺伝子にどういう影響を与えたかという追跡の研究をやって、見事に、薬のようにですね、どういうところに効いてくるのかを突き止めたということなんです。自然薯のムカゴというところを分析したようですが、遺伝子情報の追跡によって、それが胃に気を与え、胃の気を高めるという研究成果を得たようです。この手法を使いますと、今、色々なところで食の機能で未病を治すということをアピールしていこうといったときの科学的な裏づけになるので、非常に強力なサポートになってくると思っております。

実はちょっと宣伝にもなりますけれど、3月27日（日）なんです、FM横浜で20時から21時、1時間に及んで、「ラジオ未病サミット」という特番があります。その中で私がずっとしゃべるのですが、そこにゲストとして阿部先生をお迎えして、二人で対談するコーナーもありますので、そうい

ったものをどんどんアピールしていこうというところです。こういったものをそれぞれの中で、同じ県内である訳ですから、活用していただいて、更なるパワーアップというものを果たしていただければなと思っております。

部会の設置について、政策局長から説明（資料5）

（株）ブルックスホールディングスの取組みについて、県西地域県政総合センター所長より説明
県西地域県政総合センター所長：県西センターの星崎です。いつもありがとうございます。先ほど大井町長からお話がありましたように、ブルックスさんの方で色々な企画をやっていきたいと思っております。お手元の方に「ブルックスマルシェ」という5月8日のイベントがございます。実は、私どもの方で仕掛けたのではなく、ブルックスさんと民間の事業者が一緒になってやっていこうということでございまして、未病の発信を、色々な形で、自主的に行っていただけるようになってまいりました。会長さんの方にも色々ご理解をいただいて、地域にこういうものがあるならば、どんどん開放するというお話も伺っておりますので、ぜひ、私どもの方でも情報を集めさせていただいて、今後も一緒にやっていきたいと思っておりますので、皆様方、ご協力をよろしくお願い致します。

まとめ

黒岩知事：本日は貴重なお時間ありがとうございます。先ほども申し上げましたけれども、未病の戦略的エリアというものがどんどん具体的になってきているということを痛感しており、こういった動きは、これから色々なところに普及していくと実は思っています。三浦半島では、「未病を治す半島宣言」をやったんですね。これは我々が仕掛けたわけではないんですが、三浦半島の首長さんたちが三浦半島サミットをやって、三浦半島の活性化に向けて、未病を治すというコンセプトを使おうということで動き始めております。また、この未病コンセプトということで、9都県市においても、どんどん活性化していこうと呼びかけていますから、色々出てくる可能性が十分にあります。だからこそ、我々が最先端を走っているということを、これを大きなパワーにしていきたいと思っておりますので、更なる色々なアイデアをよろしく願いしたいと思います。本日は、大変ありがとうございました。

閉会